

秋田県理学療法士会ニュース



第186号
2019年1月15日発行

発行:公益社団法人 秋田県理学療法士会
会長:菅原 慶勇 編集:加賀屋勇気 印刷:(株)秋田情報プリント
事務局:〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40
TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org
ホームページ http://www.ptakita.org

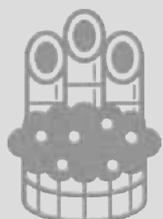


新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、4月の医療介護報酬同時改定にはじまり、会費納入期限の変更、そして6月の県学術大会・定時総会・新人歓迎会の3事業同日開催など節目となる事柄が続きましたが、年間を通して事業に対する重大な混乱や問い合わせもなく、無事滞りなく遂行できました。また8月には、当会が10年来サポートをしている全国高校野球選手権大会において、金足農業高校が甲子園で103年ぶりの決勝進出を果たす快挙を味わわせていただいたほか、12月にはタイ王国脳性麻痺スポーツ協会と秋田県ならびに大館市の間で、東京2020パラリンピック競技大会事前キャンプに関する基本合意書調印式が行われ、当会に対して協力が要請されました。こうして円滑な事業の遂行が叶い、関係各所からお声かけ頂き貢献できるのも、職能団体として会員の資質向上と職域拡大のため堅実に活動して下さっている関係各部のおかげであることに感謝し、会員の皆様すべてに心からお礼を申し上げたいと思います。

さて、今年は「連携」をキーワードに、急性期・回復期・生活期の各期と教育の分野において、情報を共有しやすい環境を整える年にしたいと考えています。電子媒体での情報発信は基より、個々の顔と顔が見える関係づくりに力を入れたいと思います。当会において、管理者間連携を促す仕組みである管理者ネットワークに参加している会員所属医療機関・施設等の割合は25%未満で、残念ながら全国でも低レベルにとどまっています。恥ずかしながら管理者ネットワークが構築されていない現状です。地域包括ケアシステムにおける市町村の各種事業展開では、3ブロック9地区の地区長が、各地区で管理者ネットワークを活用した顔のみえる意見交換や研修を行い情報を共有することで、事業が円滑に運ぶことに間違いはなく、活躍の場も広がると考えています。今までのわれわれの受け身の発信の反省も踏まえ、管理者ネットワークが進展するよう積極的に活動を展開していきたいと考えています。連携に絡めて、この7月には参議院議員通常選挙が行われます。皆様もご存知の通り、組織内候補の功績は大きく、現状においても休みなく理学療法士の権利拡大にご尽力されております。当会においても、組織内候補を全面的に支援するとともに、7月の大一番に向けて秋田県理学療法連盟とがっちりタッグを組んで参ります。会員の皆様には、是非とも更なるご支援ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

最後に、秋田県の理学療法の礎を築いた諸先輩の志を受け継ぎ、今日われわれ理学療法士の活躍の場は広がり、これと比例するように県民の皆様の理学療法（士）に対する認識も増してきました。さまざまなイベントを催していても、理学療法士に対する期待と励ましは多く聞かれます。われわれは、この期待に応えなければなりません。更に、未来に向け会員一人一人が理学療法の発展のため尽力していかなければなりません。遺憾ながら、昨年、当会員の不幸事案がありました。われわれの理学療法魂には、第一に人権を尊重したうえで理学療法サービスを提供するという根っこがあるものだと思っています。会を代表して、今回の案件を重く受け止めるとともに、改めて初心忘れず、常に厳しい目が注がれていることを肝に銘じ、つづきに自らの行動を律しながら業務にあたっていくことを固く誓いたいと思います。会員の皆様におきまして、理学療法士としての倫理観について職場などで今一度考え、話し合う機会にさせていただきたいと思います。

今年も生涯学習制度の見直しや臨床実習指導者講習会の開催など、今後に影響を及ぼすであろう事業が多くあります。一つ一つの課題に気を緩めることなく、着実に取り組んで参ることをお約束いたします。会員の皆様には更なるご協力をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



1

2019
Jan. Feb.

2



11-12月 日本全国

11-12月は一年間で最も学会が多い時期です。秋田県士会の理学療法士も全国各所で活躍しています。経験豊富

No.01 第36回東北理学療法学会

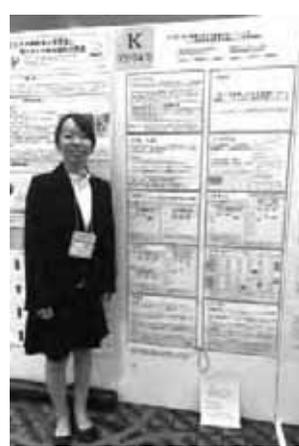
工藤 郁美

中通リハビリテーション病院／調査活動班

平成30年11月3日～4日、青森市のホテル青森にて開催された第36回東北理学療法学会に参加しました。「ヘルスプロモーションと理学療法」の大会テーマのもと、認知症予防やがんリハ、ウィメンズヘルス・メンズヘルスなど様々な領域・分野において健康増進に関わるセミナーや講演がありました。

私が所属する秋田県理学療法士会の調査活動班で行った調査の結果をまとめ、発表もしてきました。調査活動班では、毎年テーマを決めて調査を行っています。今回発表したのは、昨年度行った「健康に対する意識調査」で、県内で開催された3つのイベント（2017年度理学療法週間公開講座、2017年度地域包括ケア公開講座、ねんりんピック秋田2017健康フェア）への来場者を対象としたものです。会員の皆さんの協力を頂き多くの一般の方から回答を得ることが出来ました。今大会のテーマに即した内容でもあったため、一般人の健康意識について年代別に傾向をまとめて発表しました。このような県士会の班活動に興味をもって質問をしてくださる方もいました。調査活動を形として残すことができたこと、多くの質問やアドバイスを頂くことができたことなど、自分自身にとっても、班員にとっても有意義な学会となりました。調査にご協力くださった会員の皆さんありがとうございました。

学会を通じて、理学療法士には治療という観点のみならず、病気や怪我の予防、介護予防、健康増進など広い分野で専門性を活かしていくことが求められていることを改めて感じました。超高齢社会を迎え人々の健康に対する意識が高まっている今日、私たち理学療法士が健康増進にどのように関わっていくことができるのかを考える機会にもなりました。今回学んだことを活かし、日々の臨床を振り返り、理学療法士としての可能性をより広げることが出来るよう研鑽に努めたいと思います。



～取材memo～

秋田県士会の調査班が、東北学会で調査報告を発表したのは今回が初だそうです。素晴らしいですね！

今後もぜひ秋田県発信のデータを県士会としても報告して欲しいと思います！

No.03 第16回日本神経系理学療法学会学術大会

越後谷 和貴

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

2018年11月10日-11日にグランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）で開催された日本神経系理学療法学会に参加・発表して参りました。分科会として初めての開催であり、吉尾雅春大会長のもと、「次代を担う」をテーマに数多くの企画・演題が発表されました。私は大会2日目にポスター発表の予定でしたので、1日目はゆっくりと会場を見て回ることが出来ました。



1日目の特別講演Ⅲ「再生医療における理学療法士の役割と期待」では、札幌医科大学付属病院フロンティア医学研究所神経再生医療部門の本望先生から様々な知見を紹介して頂き、再生医療がリハビリテーションを大きく変えていることを実感しました。講演では、重度の片麻痺を呈した脳卒中患者さんへ自己骨髄間葉系幹細胞を静脈投与した効果について、動画を交えてご紹介頂きました。投与直前は全く手指の収縮が得られなかったものの、投与翌日には手指の分離運動が発現するようになり、リハビリテーション介入の結果、最終的には杖・装具を使用せず退院できた事例を踏まえ、再生医療とリハビリテーションの相乗効果について解説して下さいました。自立動作の獲得は困難とされていた重症者でも、再び自立できる日が、そう遠くない未来、訪れるだろうと感じた次第であります。

学会の季節

Let's go to the congress!



なベテランから初の学会発表を経験した若手まで、今回は学会の様子と現場の「声」をたっぷりお届けします。

No.02 第6回日本運動器理学療法学術大会

須田 智寛

秋田大学医学部附属病院

2018年12月15～16日に福岡国際会議場にて第6回日本運動器理学療法学術大会が開催されました。本大会は「挑む 運動器理学療法の核心と革新」というテーマで行われ、全522演題と盛りだくさんな学会でした。本大会では前日に雪が降り積もり、飛行機の出発が心配されましたが、秋田からはその場には7名が集い、6名が発表し、無事に学会を終えることができました。大変恐縮ではございますが、7名を代表して、秋田大学医学部附属病院リハビリテーション部の須田智寛が報告いたします。

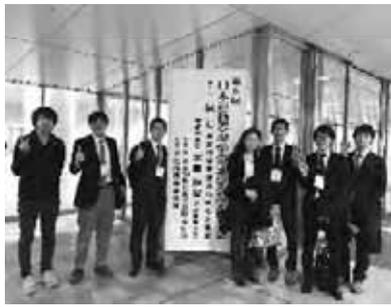
本学会は徒手理学療法部門とウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門との合同開催であり、北は北海道から南は沖縄まで日本各地の運動器のスペシャリストたちが集いました。また、英語セッションも含まれており、国際学会さながらの雰囲気も味わうことができました。大いに盛り上がった本大会で私自身最も興味を引いたのは、神戸学院大学総合リハビリテーション学部理学療法学科 准教授 坂本年将先生の「運動器理学療法と脳科学」というシンポジウムでした。運動器における分野では直接の病変部位となる運動効果器の構造と機能を理解することが重要であり、筋骨格系の理解に重きが置かれています。しかし身体運動を考えたときには運動器を制御するものは脳を含む神経系に構築されたニューロンのネットワークであり、運動器疾患だからと言わずに脳科学をベースにした理解

は必要であるとのことでした。運動器疾患を脳科学の視点から見ることは革新であり、新たな知見でもありました。近年では、超高齢社会に伴い運動器疾患に他の疾患が併存している例は珍しくなく、多角的な視点から捉えることの重要性を感じました。また本学会の質疑応答や秋田から参加した先生の発表を聴取することで、研究を行う上で困っていること、臨床での日々の悩みなどを他病院や他県の先生から聞ける機会であることを実感しました。その上で発表の見やすさや理解しやすさなどを意識しなければいけないと再認識した学会となりました。

学会においては夜の部も重要です。夜の部では秋田から参加された、7名の先生方全員で福岡の美味しい料理とお酒で交流を深めることができました。

他病院の先生方とは普段交流する機会があまり無いため、これも学会の醍醐味といえると思います。

最後になりますが、今大会の発表に先立ちましてご指導・ご配慮を頂きました先生方・上司を始めとする職場の皆様にご場を借りて感謝申し上げます。



2日目は自身のポスター発表でしたが、私の発表は博士後期課程で調査している脳卒中後患者の足圧分布に関する内容でしたので、いまいち足圧分布に馴染みがないせいか、足圧そのものよりも歩容の変化についての質問をフロアから頂きました。来年度は歩容の変化も踏まえて、各学会で発表しようと思っております。

学会参加の他に、大阪では美味しいものを頂いてきました。TVやYoutubeでよく見る大阪城にも行くことが出来ましたし、通天閣や道頓堀にも足を運ぶことが出来ました。地下鉄で移動しましたが大阪も広いですね…。三十分半ばの私はいささか疲労困憊でした。その結果、アルコールも少々進んでしまい、私が言うのも何ですけど、飲み過ぎには注意して下さい…。出来れば今度はプライベートでゆっくり大阪の街を堪能したいものです。

分科会が各都道府県で行われていく中、いずれ秋田県でも開催されることを期待しつつ、お粗末な内容ですが当該学会参加の報告とさせていただきます。

～取材memo～

飲み過ぎ注意…とのことですが、越後谷さんは、なんと大阪にメガネを忘れてきたそうです。「夏の心リハ学会で再び大阪を訪れますので、その際にメガネを見つけてきます！」と仰っていました！
学会の忘れ物には注意しましょう…

～取材memo～

同学会に参加した渡邊基起氏（秋大病院）によると、本学会での“福岡うまいものBEST3”は

- 1位 もつ鍋
- 2位 水炊き
- 3位 牛タンコロッケ

とのことでした！

No.04 第28回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 学術集会

小倉 さゆり

由利本荘医師会病院

今回日本呼吸ケアリハ学会へ初めてポスター発表を行いました。去年より当院では呼吸器のDr.が入り、呼吸リハビリが当院で開始されました。去年仙台で行われた日本呼吸ケアリハ学会に初めて参加し、まさか今年発表するとは当時は思っていませんでした(笑)当日の発表までに、初めての抄録作り、ポスター作りと初めて尽くしの日々でした。ご縁があり、秋田呼吸理学療法研究会に入らせていただき、ポスター作りのアドバイスや発表のアドバイス等をいただき、秋田呼吸理学療法研究会のみなさまには大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。今回ポスターを「在宅酸素療法導入に関して」と「NPPV療法に関して」の2演題を発表させていただきました。発表後の質疑応答では、PTの方はもちろん、日本呼吸ケアリハ学会ならではの臨床検査技師等の他職種からの質問やアドバイスをいただくことが出来ました。発表前は緊張でいっぱいでしたが、発表後は「解放感」と「達成感」でいっぱいでした。

今回発表するにあたって、病院全体の協力があり発表をすることができました。発表をする時は1人ですが、発表まで至ることできたのは私自身の力ではなく、病院スタッフや研究会のみなさま、そして患者様の協力あってこそだと、今回の学会発表を通じて感じました。最後に、呼吸器リハビリを始めてまだまだ浅いですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



小倉さゆりさん(左)と佐々木俊太さん(右)の発表の様子。堂々とした発表でした。

～取材memo～

今回が、初めての学会発表となった由利本荘医師会病院のお二人に感想を頂きました。初発表の緊張感と達成感が伝わってきますね。今後も頑張ってください！

また、この日本呼吸ケアリハ学会では、市立病院の岩倉氏が、奨励賞を受賞されました。次号のニュースでは、岩倉氏からもコメントをいただく予定です。

佐々木 俊太

由利本荘医師会病院

今回、千葉県の幕張メッセで行われた、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会において、ポスター発表をさせていただきました。私自身、全国学会という大きな舞台で、かつ、発表すること自体が初めてであり、何もかもが緊張の連続でした。振り返ってみると、抄録を作成する段階からどうすればよいかわからず悩んでおりましたが、職場や他施設の先輩方からご意見をいただき、試行錯誤を重ねながらなんとか進めることができたと感じています。全国学会という貴重な場でこのような経験ができたのは、アドバイスやご指導してくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。

発表が終わった後も緊張は続いておりましたが、考えてみればあっという間だったと感じています。ですが、ポスターを作成し発表を終えるまでの中で、自らの理学療法について考え、見直すきっかけとなりました。今回の発表で得た経験や、質問いただいたことを実際の臨床現場で患者様・症例に還元しなければなりません。少しでもその患者様にとってより良いリハビリテーションを提供できるよう、今回の経験を活かしてこれからも頑張っていきたいと思えます。また、研究や発表が実際の臨床に結び付けられるよう、日々の臨床を大切にしていきたいと感じました。

No.05 第5回日本骨格筋電気刺激研究会 学術集会

加賀屋 勇気

秋田県立脳血管研究センター



11月17日に東京で行われた、日本骨格筋電気刺激研究会にて発表させていただきました。まだ発足から日が浅く、認知度の高い学会ではありませんが、整形から循環器まで幅広い領域のトップドクターが中心となっており、特別講演、一般演題ともに非常に刺激的な学会でした。また大変有難いことに、報告させていただいた末梢動脈疾患に対する骨格筋電気刺激に関する報告で優秀演題賞を頂きました。写真は情報交換会で、兵庫医療大学の玉木彰先生にお祝いいただいた際のもので、玉木先生がいらっしゃるということからも分かるように、多分野の医師やPTが集まる貴重な会です。ぜひ皆さん、来年は一緒に参加しましょう！

No.06 23rd Congress of the Asian Pacific Society of Respirology

古川大
市立秋田総合病院

11/29～12/2に台湾で開催された23rd Congress of the Asian Pacific Society of Respirologyに参加してきました。今回は、異なる負荷圧による吸気筋トレーニング（IMT）が横隔膜・吸気補助筋厚増大に与える効果について発表して参りました。近年、ステイトメントやガイドラインにおいて推奨レベルが低いとされるIMTですが、それは、【誰に効くか】、【何で効くか】といったところが明らかにされていないためだと考えます。横隔膜は肥大せず、呼吸補助筋は前斜角筋優位で肥大したといった今回の結果は、吸気筋力・運動耐容能の増加、呼吸困難感の減少といったoutcomeの解明の一助になるものだと確信しております。拙い英語での発表が無事終わり、座長の先生とのディスカッションは何とかなりましたが、フロアの質問は聞き取れず…そんなときスッと助け舟を出してくれた先輩方には頭が上がりません。



古川氏の発表の様子。英語で原稿を見ずに堂々とプレゼンしていました。



APSR会場前にて、右から柴田和幸氏（市立病院）、大倉和貴氏（秋大病院）、加賀屋勇気氏（脳研）、古川大氏（市立病院）

学会は参加するだけで満足していた私ですが、某先輩からのお言葉を受け、得られた知見を臨床へ還元するところまで意識して臨みました。今学会は、ARDS患者に対するICUでの早期リハビリテーションの取り組みが多く見られた印象でした。腹臥位療法やHigh peepの治療成績などは新たな結果も報告されており、大変興味深いものでありました。今回の経験で得たものを活かして、今後はより一層精進していきたいと思えます。

学会全体を通じて、国際学会という場における多様な価値観に触れることができ、刺激を受ける機会となりました。日本の呼吸リハビリテーション介入においても参考にするべき点が多くあったのではないかと考えます。まだまだ未熟な私を送り出してくれた高橋仁美先生をはじめとした市立秋田総合病院リハビリテーション科の皆様、学部生時代から大変お世話になっている塩谷隆信秋田大学名誉教授、佐竹将宏教授にはこの場をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

～取材memo～

「日本全国学会の季節」と銘打っておきながらトリは国際学会です。開催場所は有名な“台北101”のすぐそばで、多くの人で賑わう地域でした。



秋田からは、上の写真の4名の他、秋田大学の佐竹将宏教授、照井佳乃先生が参加されました。

←台北101
夜はきれいにライトアップされます！



←コングレスバッグはなんと多機能リュックでした！



～国際学会のギモン～

興味があっても色々ナゾが多い国際学会。よくある国際学会に関する疑問についてお答えします！

参加登録の方法は？ →国内と同様にネット上で登録できます。発表する場合は当然ながら抄録は英語で作成します。

費用はどれくらい？ →学会によりますが、参加費だけで5-10万円かかるのが一般的です。抄録登録にも数万円かかる場合があります。これが最大の難点…ボーナスをためています…。もちろん旅費もかかります…。

英語で発表ですか？ →英語です。意外と練習すれば英語で発表はできます。問題は質疑応答ですが…。会場や街で英語に耳を慣らしたり、事前にある程度質問を想定して練習しておくのが良いと思います。正直、聞く方も日本人は英語が苦手と思っているので、易しく聞いてくれたり、言い直してくれたりします。うまく話すことより堂々と話すことが大事だと思っています。

参加特典があると聞いたのですが… →これも学会によると思いますが…。今回記事を書いていたAPSR2018では、コングレスバッグとUSBが参加者に配布されました。USBの中にはすべての抄録が掲載されています。こうした特典もちょっとした学会の楽しみですね（笑）

回答者：加賀屋勇気

興味があるけど、参加できる国際学会が分からない、発表をサポートして欲しい…という方はぜひ各研究会にお声がけください！研究会には国際学会の経験が豊富なメンバーも在籍しています。英語での抄録作成から、登録、発表、旅行の仕方までサポートが受けられます！

第24回秋田県理学療法士学会

2019年6月22日開催決定

学会企画班 班長
富田 浩輝

ソーシャル・キャピタル（豊かな社会関係資本）の醸成を目指して

～地域の力を高めるために理学療法士にできること～

学会概要

本学会では「ソーシャルキャピタル（豊かな社会関係資本）」をキーワードに、2名の講師をお招きして特別講演をしていただく予定です。特別講演Ⅰでは、「ソーシャルキャピタルの本質と捉え方（仮）」をテーマに、特別講演Ⅱでは、「超高齢社会を官・民・職で乗り越える～専門職と住民の協働を目指して～（仮）」をテーマにご講演いただきます。

「ソーシャルキャピタル」は、聞き慣れないキーワードだと感じる会員の方々もいらっしゃるかと存じます。しかし、眼前に立ちだかる2025年問題、少子高齢化・人口減少、健康格差、様々な問題を上手に乗り越えていくために、**どのように地域の力を高めていけば良いのか、理学療法士には何が出来るのか**、本学会がこれらの問題を再認識し、皆さんと一緒に考える機会となれば幸いです。

奨励賞を新設

第24回秋田県理学療法士学会での新たな試みとして、**学会奨励賞**の新設を企画しております。対象は、**演題登録時に理学療法士免許取得から5年以内の会員**です。詳細は、演題募集要項（各施設への発送資料またはホームページ）をご確認いただければと思います。

研究報告の発表に限らず、1症例報告の発表など、若手会員の皆様の日々の臨床経験を幅広く演題登録していただき、学会会場を活発な意見交換の場として活かして貰えればと思います。

一般演題募集は、平成31年1月15日（火）～3月1日（金）正午までを予定しております。新入会員～経験豊富な会員の皆様まで、多数のご応募をこころよりお待ちしておりますので、この機会に是非演題登録を何卒お願い申し上げます。

学会終了後は、**総会**および**懇親会（新人歓迎会含む）**が予定されており、翌日には**新人教育プログラム**が開催予定です。各施設の先生方におかれましては、新入会員の積極的な学会および新人教育プログラムの参加にもご配慮いただければ幸いです。

【会 期】平成31年6月22日（土）
9:00～16:00（受付：8:30～）
【会 場】秋田大学大学院医学系研究科 医学系研究棟
【学会長】大田 健太郎 氏（大湯リハビリ温泉病院）

一般演題募集

1月15日開始！

第37回
東北
理学療法
学術大会

2019
9.14 [sat] - 15 [sun]
とうほう・みんなの文化センター
(福島県文化センター)

今年の東北理学療法学会は例年の11月開催から9月開催に変更となります。大会長である総合南東北病院の舟見敬成氏からのコメントです！

学会において、初めての参加型のカンファレンスを行う予定です。面白い企画を考えていますので、是非とも、演題登録をされて、福島に足を運んで下さい。

2019

演題募集期間：2.19-3.31

理学療法の本質を高める ～それぞれが目指す次の一步～

詳細はコチラの
学会HPをご参照
ください！
→→→→



PT 37
@FUKUSHIMA

- 表彰報告 -

様々な分野でその功績が認められ、受賞された先生方を紹介します。今回は平成30年度環境・保健事業功労者表彰を受賞された4名の理学療法士をご紹介します。受賞を受けて、吉田光一氏、古田晋氏のお二方からコメントを頂きました。

平成30年度環境・保健事業功労者表彰 受賞者

古田 晋 氏
 島山 榮 氏
 吉田 光一 氏
 糸屋 美保子 氏

環境・保健事業功労者表彰は、県民の健康づくり、衛生水準の向上及び生活環境の改善に貢献されている功労者の表彰を行い、県民の健康づくりや衛生・環境等に対する意識高揚を図るというもので、秋田県庁にて昨年の11月16日に表彰式が行われました。



(古田氏、島山氏、吉田氏。表彰式にて)

受賞された皆様、改めましておめでとうございます！

この度、県知事表彰をいただきまして誠にありがとうございました。このような賞を受けられたのは、言うまでもなく個人の力によるものではありません。36年に渡り指導して頂いた諸先生を始め、支えてくれた職場の同僚のおかげであると身に染みて感じております。

現在、私は継続雇用により同病院での訪問リハビリを行っております。今後とも、地域の方々力になっていけるようリハビリを行っていきたく思っております。

吉田 光一

この三十年、理学療法士としてどんな事をやってきたかを振り返るよい機会になりました。当然のことながら、これまで表彰された先生方とは比ぶべくもなく お恥ずかしい限りなのですが、表彰されたことは素直に喜ぶこととし、これからの人生の励みにしたいと思います。菅原会長をはじめ理事会の皆様、ご推薦いただき有難うございました

古田 晋

専門領域研究班 活動報告



第1回スポーツ・パラスポーツ理学療法研究会

12月5日水曜日の19時より秋田厚生医療センターにて第1回スポーツ・パラスポーツ理学療法研究会を開催しました。今回はスポーツ分野として中通リハビリテーション病院の福原隆志先生から「金足農業高校野球部への帯同報告」をご講演いただき、パラスポーツ分野では当研究会グループ長を務めさせていただいている秋田厚生医療センターの佐藤陽介から「義足スポーツの経験」についてご報告させていただきました。金農野球部への帯同報告では、選手達の活躍の裏で理学療法士が勝利に貢献できる活動ができた事が印象的な報告でした。トレーナールームには選手達が集まり、彼らに信頼され良い意味で「溜まり場」としてリラックスできる場を提供できていたのではないかと思います。私が担当させていただいた義足スポーツの経験では、少しでも「義足」に興味を持っていただき、義足を使ったスポーツ活動のみならず切断者に対するリハビリテーションについて参加された皆さんに考えて頂ける内容をお伝えしたいと思ってお話させていただきました。義足について話すと止まらないクセが仇となり、スライドを大分残してしまいましたが、臨床における義足のリハビリテーションについてはまた後日お話を頂ければと思います。また、閉会後も模擬義足に挑戦してみるなど積極的な参加者が多く、皆さんに支えられて無事に第1回目の研究会を締めくくる事が出来ました。

今回は理学療法士だけではなく、医師、義肢装具士、看護師を含め総勢41名の参加がありました。スポーツやパラスポーツのサポートは理学療法士だけで完結できるものではありません。また、パラスポーツでは義肢装具士をはじめとしてメカニックを担当するスタッフとの情報交換も大切だと考えます。今後も職域の垣根を超えてこの分野に関わる多くの人々との情報交換ができる学びの場を作っていきたいと思っております。スポーツ・パラスポーツ理学療法研究会をよろしくお願いたします。

スポーツ・パラスポーツ研究会
佐藤 陽介



部長だより

研修部

●中央ブロック研修班

第3回中央ブロック講習会

講師である伊藤超短波株式会社の我孫子幸子氏は、2007年同社に入社後から物理療法の認知度向上のため国内外で講演活動をしている方です。昨今、物理療法機器はどんどん機能が増え臨床的にも使用機会の幅が増えているものの、原理や基礎を知らず、最大限の効果が活用できていないのではないのでしょうか。今回は、一見難しそうな基礎の話や臨床現場にどのように活用していけば良いのかといった、明日から使えることを簡潔に講演いただきます。

日 時：平成31年2月2日（土曜日）15：00～17：00

テーマ：電気刺激療法の活用 ～最大限の効果を得るために～

講 師：伊藤超短波株式会社 マーケティング・技術研究本部 学術部 部長 我孫子幸子氏

会 場：秋田大学医学部保健学科

対 象：秋田県理学療法士会会員、医療従事者、他

参加費：2,000円（非会員3,000円）

申込み方法：E-mailでお申し込み下さい。

必要事項：氏名、所属、連絡先

※携帯のアドレスからお申し込みの場合、PCメールからの受信拒否設定を解除してからお申し込みください。

お問合せ先 秋田大学医学部附属病院リハビリテーション部 渡邊基起 E-mail：akitapt.kensyuu@gmail.com

理学療法士講習会（応用編）

この度、富田昌夫氏、曾根政富氏を講師にお招きし、標記の通り理学療法士講習会(応用編)「成人片麻痺の評価と治療」を開催いたします。

脳卒中後遺症者の評価及び治療について知識を深めるだけでなく、実技練習や両講師による治療デモンストレーションもあり、充実した内容となっています。ご多用中とは存じますが、万障繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願い致します。

日 時：平成31年2月15日（金）13：00～2月17日（日）12：00

テーマ：「成人片麻痺の評価と治療」

講 師：富田 昌夫 氏（藤田保健衛生大学・佛教大学客員教授）

曾根 政富 氏（元順天堂大学附属順天堂東京江東高齢者医療センター）

会 場：中通りハビリテーション病院 東棟会議室・理学療法室

定 員：20名

参加費：会員：20,000円（非会員25,000円）

申し込み方法：①氏名（ふりがな） ②所属施設 ③会員番号 ④経験年数 E-mailにてお申し込みください。

申し込み・問い合わせ先 社会医療法人明和会 中通りハビリテーション病院 理学療法室

理学療法士講習会事務局 近藤友加里

E-mail：reha-ptch@meiwakai.or.jp TEL：018-833-1131

●専門領域研修班

運動器／スポーツ・パラスポーツ研究会 合同研修会

講師である札幌医療リハビリ専門学校の伊藤真之助氏は、車いすカーリングにトレーナーとして国内外問わず帯同し、現場で非常に精力的に活動しておられます。今回は、今までパラスポーツに関わる機会がなかった方でもこれから関わっていくために必要な知識や経験談などを講演いただきます。会員外であっても興味のある方がいらしたら、是非お声がけください。

日 時：平成31年2月16日（土曜日）14：00～17：00

テーマ：パラスポーツ入門

講 師：札幌医療リハビリ専門学校 伊藤真之助氏

会 場：秋田大学医学部 医学系研究棟2階 第2講義室

対 象：秋田県理学療法士会会員、医療従事者、他

参加費：1,000円

申込み方法：E-mailでお申し込み下さい。

必要事項：氏名、所属、職種、連絡先

※携帯のアドレスからお申し込みの場合、PCメールからの受信拒否設定を解除してからお申し込みください。

お問合せ先 秋田大学医学部附属病院リハビリテーション部 渡邊基起 E-mail：akitamptg@gmail.com

●指定管理者研修班

平成30年度 第2回 協会指定管理者（初級）研修会のお知らせ

期 日：平成31年2月9日（土）15：00受付 15：30開始

場 所：秋田リハビリテーション学院（秋田市茨島1丁目4-80）

対 象：新人教育プログラム未終了者でも可。管理者に該当されない方でも管理者研修会に興味ある方はどなたでも参加可能。

申込み先：田口晶子（秋田リハビリテーション学院）（taguchi@core-akita.ac.jp）

参加費：無料 申込み締切：1月31日（木）迄

平成30年度 領域別指定管理者研修会のお知らせ

期 日：平成31年3月2日（土）3日（日）

場 所：秋田リハビリテーション学院（秋田市茨島1丁目4-80）

対 象：協会指定管理者（初級）を受講されていない方でも可能。管理者研修会に興味ある方はどなたでも可能。

申込み先：田口晶子（秋田リハビリテーション学院）（taguchi@core-akita.ac.jp）

参加費：無料 申込み締切：2月22日（金）迄

●生涯学習班

平成30年度新人教育プログラムについて

① 第5回新人教育プログラム研修会

期 日：平成31年1月19日（土）

会 場：秋田リハビリテーション学院

内 容：8：30～受付 9：00～10：00 <必須研修 A-4>「人間関係および接遇（労働衛生含む）」
阿部 隼平氏（能代厚生医療センター）
10：10～11：10 <理学療法の基礎 B-4>「症例報告・発表の仕方」
佐藤 大道氏（大曲厚生医療センター）
11：20～12：20 <理学療法の専門性 D-3>「理学療法の研究方法論（EBPT含む）」
高橋 裕介氏（秋田大学医学部附属病院）

受講料：1講義300円

備考：①事前の申し込みを1/11まで下記E-mailアドレスをお願いします。

氏名、所属、受講希望テーマをご記入ください。

②公益社団法人日本理学療法士協会会員証をお持ちの方は、受付にて使用しますので、必ず持参して下さい。

③新人教育プログラム修了者も受講できますが、専門・認定理学療法士を受験または更新するためのポイントには認定されません。

新人教育プログラムに関するお問合せ先：生涯学習班 伊藤 雄平

秋田厚生医療センター リハビリテーション科 〒011-0948 秋田市飯島西袋1丁目1番1号

TEL 018-880-3000（内線2159） E-mail：akriha@akikumihsp.com

●表彰者選考委員会

・第47回医療功労賞表彰候補者について理事会に答申しました。

・2019年秋の叙勲及び褒章表彰関係に於いて、叙勲Ⅱ類の5年以内の表彰候補者について三役に答申しました。

会長のうごき

10月

10月24日(水) 秋田県介護人材確保対策事業講師 (秋田市)

10月25日(木) 秋田市多職種連携推進研修部会参加 (秋田市)

10月31日(水) 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による大学評価参加 (北海道)

11月

11月1日(木) 秋田県介護人材確保対策事業講師 (潟上市)

11月2日(金)～4日(日) 東北ブロック協議会理事会ならびに東北理学療法学会大会参加 (青森市)

11月6日(火) 秋田リハビリテーション学院講演 (秋田市)

11月8日(木) 介護予防事業講師 (秋田市)

11月9日(金)～10日(土) 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会参加 (千葉)

11月14日(水) 秋田大学医学部保健学科講義 (秋田市)

11月15日(木) 秋田県介護人材確保対策事業講師 (北秋田市)

11月16日(金) 平成30年度環境・保健事業功労者表彰

式参加 (秋田市)
11月17日(土) 秋田県呼吸ケア研究会ならびに世話人会参加 (秋田市)

11月21日(水) 介護予防事業講師 (秋田市)

11月21日(水) 秋田県リハビリテーション専門職協議会会議参加 (秋田市)

11月24日(土) 21世紀の医療を守る県民の集い参加 (秋田市)

11月27日(火) 介護予防事業講師 (秋田市)

11月27日(火) 潟上市障害者総合支援法に関する審査会参加 (潟上市)

11月29日(木) 体力診断事業アスリート診断講師 (秋田市)

12月

12月2日(日) 秋田県リハビリテーション研究会リハビリテーションイヤーボックス参加 (北秋田市)

12月5日(水) スポーツ・パラスポーツ理学療法研究会参加 (秋田市)

12月9日(日) 秋田県トレーナーズステップアップ研修会参加 (秋田市)

12月10日(月) 3役会議 (秋田市)

12月12日(水) 第5回理事会参加 (秋田市)

第19回

おえだの職場を知ってけれ！

いつも転院申し送りしているけど、知っているようで知らないあの病院、あの施設・・・どんな理学療法士がどんなことしているの？そんな疑問に答えるべく、自分たちの病院・施設を紹介していくコーナーです！



大湯リハビリ温泉病院



紹介者：畠山由子さん



①私たちが働く病院は...

秋田県鹿角市の大湯温泉郷に位置しております。温泉を有効に利用しながら、回復期病棟、介護医療院（療養施設）、医療型療養病棟、外来リハビリ、訪問リハビリ、通所リハビリを提供し、地域完結型のリハビリテーションを目指しています。

②リハビリ対象疾患は...

脳血管疾患が約7割を占め、その他整形外科疾患、呼吸器疾患、がんなどが対象です。

③理学療法士の人数は...

PT：24名 OT：24名 ST：5名

④私たちの病院のここが“ウリ”です！

地域の中核的なリハビリ病院として病院リハを生活期へつなげるために積極的に取り組んでいます。

由利組合総合病院



紹介者：村上瞳さん

①私たちが働く病院は...

秋田県南西部の由利・本荘二次医療圏における基幹中核病院として、急性期医療を中心に地域のリハビリテーション活動をけん引しています。

②リハビリ対象疾患は...

脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、癌・リンパ浮腫

③理学療法士の人数は...

14名です。

④私たちの病院のここが“ウリ”です！

地域住民の皆様向けに腰痛・膝痛予防の講演を行ったりと、介護予防の面でも地域に向けて情報を発信しています。

研究に恋して no.12

今月のScientist PT

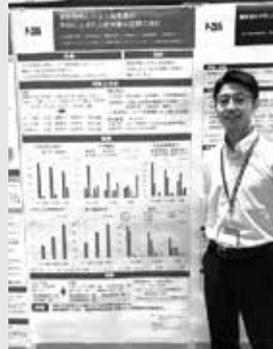
山崎 貞一郎 (秋田リハビリテーション学園)

「Hi-Standard」

以下、極端な表現が含まれることを新年ということでご容赦下さい。

「『しっかりしたデザインの研究を行い論文化する』と言っている時点で自分の業績ありきで、患者さんの回復やご家族のお気持ちは二の次ということではないでしょうか？」(原文を参考に改変)。これは最近、Twitterである医療従事者の方が匿名の相手から投げかけられた言葉です。皆さんはこの言葉にどういった感想を抱くでしょうか。これはよく聞く「臨床 vs 研究論」で、メッセージを送った方は臨床派なのだと思います。「やった、治った、よかった」これを「三『た』論法」(三段論法ならぬ)と言います(福原俊一、著「臨床研究の道標」)。例えば、「ふくらはぎを揉んだ」「〇〇病が治った」「〇〇病はふくらはぎを揉めば治る」というような感じですか。私は、上記のTwitterでのメッセージを見てこの「三た論法」の話が思い浮かびました。

臨床を離れ教育に移って、一番強く感じたのは、「標準的な理学療法」って実は少ないという事です。例えば、自分が専門としている循環器でいうと、国家試験に出てくる内容は極論、「心筋梗塞の人に有酸素運動とレジスタンス・トレーニングをしよう」だけです。その他の疾患や色々な理学療法評価・介入はほぼ出てきません。



心リ八学会ではパネルディスカッションとポスターで発表しました。

原因はおそらくですが、科学的根拠が明確なのがそれしかないからです。私が臨床にいる時は、忙しさにかまけて研究なんておぼろぎでした。臨床を離れた今、しっかりやっておけばよかったという反省の気持ちが私の研究に対するモチベーションになっています。

では何をやろうか？と考えてやったのが、「現状を把握する」という事です。まず始めに、県内の心大血管リハ料を算定している施設のPTの方々へアンケートを取りました(未発表)。そこで、得た疑問をもとに、前職の病院のカルテのデータをまとめました(ほぼ後輩たちが)。対象は高齢心不全患者さんで、テーマは何割の人が退院後PTやOTを継続しているのか、というものです。幸運なことに昨年の全国心臓リハ学会のパネルディスカッションで発表させて頂くことができました。しかも、10年目にして初めての口述発表でした。ここで伝えたいのは、「どんなテーマだろうと研究にな

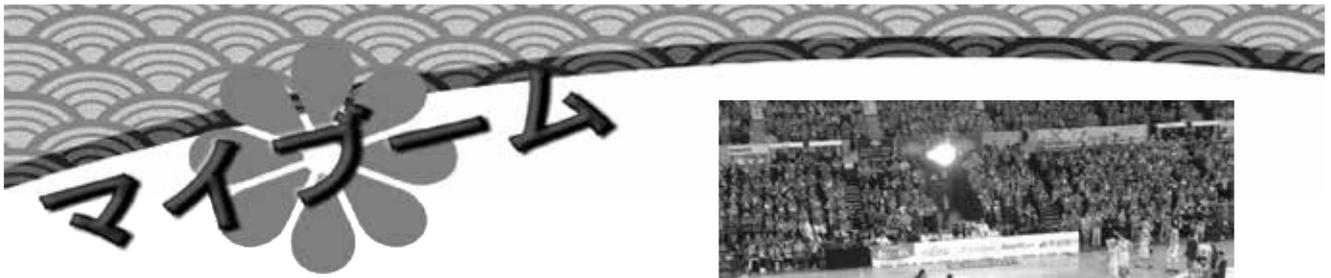
なり得るし、何年目だからどうだと言うのは関係ない」という事です。目的さえ明確であれば、日々やっていることを何か共通の指標で記録に残し、まとめるだけで研究になると思います。しかも、全員が共通の指標で記録をしてそれをまとめれば、それが科学的根拠になり、「真の標準」が生まれてきます。そのように考えれば、冒頭の「臨床 vs 研究論」という発想は生まれて来ないのではないのでしょうか。みんなで「ハイスタ」な理学療法をつくっていきましょう！

-PROFILE-



山崎 貞一郎

神奈川県立保健福祉大学を卒業。中通総合病院を経て、秋田リハビリテーション学院に勤務。東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻修士課程在籍中。所属は日本心臓リハビリテーション学会、日本腎臓リハビリテーション学会。



秋田リハビリテーション学院 伊藤 昭

森岳温泉病院の福士正紀先生からバトンを受け取った、秋田リハビリテーション学院の伊藤昭と申します。

それでは早速、マイブームについて書かせて頂きます。私のマイブームは、日本の男子プロバスケットボールのトップリーグであるB.LEAGUEです。とりわけ、地元秋田のチームのノーザンハピネッツ（NH）に、はまっております。

まず、B.LEAGUEについてご説明いたします。2005年に日本バスケットボール協会（JBL）から独立する形で、日本プロバスケットボールリーグ（Tkbjリーグ）が発足しました。この発足以来、日本の男子バスケットボールのトップリーグは、ナショナル・バスケットボール・リーグとTkbjリーグの2リーグが存在する珍しい状況となってしまいました。その後、初代川淵チェアマンを筆頭にトップリーグの統一を進め、2015年4月1日に、これら2リーグが統合し、2016年からB.LEAGUEがスタートしました。このリーグにはB1とB2リーグがあり、各々18チーム、計36チームが所属しており、両リーグともに3つの地区に6チームが割り当てられています。

発足年の2016年のNHは、B1リーグ東地区でスタートし、蓋を開けてみると、18勝42敗、総合16位で終了し、残留プレイオフの最後の残り1秒で、現、横浜ビーコルセアーズの川村選手に3ポイントを決められ逆転負けを喫し、B2に降格が決定。悪夢のような、プザービータ！ショックでした…。この教訓を糧に、昨年度は、B2リーグ東地区にて、54勝6敗！過去最高勝率にて見事B1に復帰しました。今シーズンからB1に復帰しましたが、不安感でいっぱいです。なぜならば、B1東地区には、日本人初のNBAプレーヤーである田臥勇太選手が在籍している、2016年シリーズ優勝の栃木ブレックスをはじめ、2017年シリーズ優勝のアルバルク東京と準優勝の千葉ジェッツが在籍している、強剛がひしめく地区だからです。

これら強豪チームと互角に渡り歩いていくためには何か突出したチームカラーを打ち出さなければなりません。NHのチームカラーは、ずばり、超アグレッシブなディフェンスです。おそらく、全チームの中で、一番アグレッシブなマンツーマンディフェンスをおこなっているチームだと思います。



しかし、そのスタイルからファール（F）を行うリスクが高く、現に1試合平均24Fと、全チーム平均に比べ42%も多いのです。また、パスミスが多くターンオーバーが1.39倍と高値です。一方、シュートブロック数とスチール数が全チームの平均に対して1.26倍・1.31倍と、良いスタッツもみられます。しかし、12月9日現在の勝敗数が8勝13敗、東地区5/6位、全体で14/18位となっています。このアグレッシブさが勝敗に結びつかない要因として、Fからのフリースローの失点、オフエンスリバウンド（OR）後のフィールドゴール（FG）の%の低さ、そして3ポイントシュート（3FG）の確率の低さがあげられます。FG%は、全チームの平均と比べて2%低く、3FG%も全チーム平均に比べ5%も低くなっています。ORをとっても、最終的なシュートを外しては、勝てる試合も勝てなくなってしまうのです。

しかし、ここ6試合は4勝2敗、この間の平均失点が67.5点とディフェンスが機能し、余計なF数がやや軽減し、一試合平均21.7Fとなっています。FG%はほぼ変わりませんが、3FG%がやや上昇傾向です。シーズン中盤から、同地区のチームとの対戦が続き、今月の22日、23日にも@CNAアリーナにて、千葉ジェッツとの対戦があり、23日に観戦予定です。シーズン終了まで、継続して厚く応援していきたいと思っております。Vamosハッピーネッツ！

最後までお読みいただきましてありがとうございます。次回は、同僚の富田浩輝先生にバトンタッチしたいと思っております。よろしくお願い致します。



ニュース編集班より

明けましておめでとうございます。ニュース編集班班長の加賀屋です。会員の皆様のご協力で出来ているニュースです。どうか、2019年も秋田理学療法士会ニュースを宜しくお願い致します。今回はしばし休んでいた「研究に恋して」をリニューアルして復活させられました。今後もご期待ください。

次回ニュースの原稿締め切りは2月20日（水）です。載せたいニュース、写真などありましたら、ニュース編集班までお寄せください。

連絡・送付先：akita.ptnews@gmail.com

問い合わせ先：秋田県立脳血管研究センター 機能訓練部 加賀屋勇気

Tel：018-833-0115 Fax：018-833-2104 E-mail：kagaya-yuki@akita-hos.or.jp

学校法人 コア学園

厚生労働大臣指定・秋田県知事認可

秋田リハビリテーション学院

平成27年4月開校
秋田県初！
理学療法士養成専門学院

理学療法学科

4年課程

40名定員



〒010-0066 秋田市茨島一丁目4-80
TEL 018-665-0188 FAX 018-864-8137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します！医療と福祉を確かな技術で

有限会社 共栄メディカル

●総合医療機器 ●理化学器械 ●福祉用具レンタル ●介護用品 ●顕微鏡顕微鏡 ●業務用洗濯機

〒014-0102 秋田県大仙市四ッ屋字水木田33
〒010-0964 秋田市八橋総沼1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)
FAX 0187-66-2139
☎ 0120-971-294

信頼の医療機器

株式会社 秋田医科器械店

代表取締役 佐藤俊介

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2
Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546

本荘営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4
Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313

能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番
Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

生体现象測定装置・FES（機能的電気刺激）
リハビリテーション機器 販売

有限会社 バイオテック

代表取締役 飯塚清美

〒010-0041 秋田市広面字碓80-1
TEL 018-837-0161
FAX 018-837-0162

高度管理医療機器販売業 第04-000026号

有限会社 秋田ブレース

義肢 装具 コルセット 車椅子各種杖

〒019-2621
秋田県秋田市河辺諸井字野田96-5
TEL/FAX 018-882-2116

TEIJIN

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社
〒100-8585 東京都千代田区豊が間3丁目2番1号
PADOXXINACTIB11201

(社)日本義肢協会
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

厚生労働省指定工場

社団法人日本義肢協会登録・東北101号

(株)千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木 雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22

TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126